

場所 神奈川県横浜市

面積 4.44ha

活動目的 環境保全林を中心とした歴史的に生物多様性の価値を学ぶ教育現場であり、大学教育などに活用する。1970年代に移転統合されて以来の本キャンパスの①自然を重視し、②国際的な生物多様性維持のための貢献、③教育研究への貢献、④安全管理の4つの側面から、管理計画を定める。



サイト概要 本学の敷地面積全体の約44%を緑地が占める。キャンパス地図の緑の部分の、Aの一部とCが移転前からの残存林。この地図のA, Bが保全林、Cが里山、Eが草地である。本学では大規模な植生調査が数回行われ（藤間、原田、藤原（2001）<https://x.gd/e4gtF>）、緑地には多くの希少植物が生き残っている。環境保全林を中心とした歴史的に生物多様性の価値を学ぶ教育現場であり、大学教育などに活用する。故宮脇昭名誉教授が世界的に展開した植林活動の遺産を伝承する。

土地利用の 変遷

1970年代にゴルフ場跡地を利用して大学キャンパスを設置した際に、「既存地勢の活用、最小限の土地造成、植物生態系保存地区（開発禁止区域）の設定、キャンパスの鎮守の森の保全・潜在的な自然植生を踏まえた環境保全林の形成、あるがままの自然を保全する」などの理念のもとに設計、運用してきた。2016年のキャンパスマスタープランでは、A:古くからの照葉樹林（下層植生も含めて維持）、B:環境保全林（移転後の新しい樹林）、C:コナラなどの雑木林、D:構内通路、建物周辺の環境保全林、E:ススキ高茎草本草地、F:トダシバなどの背の低い草地に分けて維持管理している。

サイト周辺の 環境

一部未利用地が隣接しているものの、市街地の中にある。

アピール ポイント

本学の故宮脇昭名誉教授のグループが進める世界各地の高密度植栽型植林活動は世界的に高く評価されている。申請地はその植林事業の理念を説明できる森を含む、本学の「緑地管理計画」に基づき、環境に配慮した、広く社会及び地球環境と調和のとれたエコキャンパスの構築を積極的に推進する。特に自然知見に沿った機能配置の継承、潜在的な自然植生を踏まえた環境保全林の維持など自然と共生した多様な外部空間を形成する。本キャンパスには縄文時代後期の常盤台遺跡（帷子貝塚）、同北遺跡があり、当時から人間が利用する自然が広がっていたことが示唆される。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

様々なタイプの緑地を包含し、それぞれで希少種を含む様々な在来種が生息している。横浜中心部という立地からも、豊かな生物相を育む場として重要である。生態系サービスの事例を以下に挙げる。

- ①地域住民や近隣保育園児などのレクリエーションの場 ②学生教育やリカレント教育におけるフィールドワークの場 ③子ども向けの環境教育の場 ④季節に応じた食文化の理解のための学習の場 ⑤近隣住民の憩いの場。

【主な植生】

シイ・カシ林、エノキ群落、アズマネザサ群落、ススキ群落、マダケ林、クスノキ・アラカシ植林（2023年11月調査）

【確認された主な動植物など】

【植物】植物300種

アラカシ、シラカシ、スダジイ、アカガシ、クスノキ、ヒノキ、サワラ、タラノキ、ネズミモチ、コブシ、ムクロジ、ヤブツバキ、サザンカ、モッコク、チャノキ、アジサイ、トベラ、カナメモチ、オオシマザクラ、シャリンバイ、サンショウ、マンリョウ、ムラサキシキブ、ヤマグワ、アカメガシワ、カントウタンポポ、ヤハズエンドウ、カスマグサ、サギゴケ、カタバミ、ヘビイチゴ、ネジバナ、ドクダミ、ツユクサ、チガヤ、ミズヒキ、カラスウリ、ヤブガラシ、コヒルガオ、タケニグサ、ヒヨドリジョウゴ、ヘクソカズラ、クズ、イタドリ、ススキ、ヤブミョウガ、サネカズラ、センニンソウ、ガガイモ、アオツツラフジ、ツルウメモドキ、エビヅル、ツツブキ、ハリガネワラビなど

【動物】哺乳類7種、鳥類29種、その他の脊椎動物5種、節足動物61種、環形動物1種、陸産貝類2種
アズマモグラ、アカネズミ、タヌキ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ヒヨドリ、カワセミ、コゲラ、ジョウビタキ、キビタキ、ハクセキレイ、チョウ目、甲虫目、ハチ目、クモ類、ムカデ類など



写真の説明：自生するカントウタンポポとムクロジ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

環境省レッドリストや神奈川県レッドデータブック生物調査報告書2022において掲載されている絶滅危惧種や希少種を確認した。

本学の敷地面積全体の約44%を緑地が占める。大規模な植生調査が数回行われ（藤間、原田、藤原（2001）<https://x.gd/e4gtF>）、緑地には多くの希少植物が生き残っている。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020及び神奈川県レッドデータブック2022に掲載された植物5種が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>1. 活動目的 以下4つの側面から、横浜国立大学キャンパスの維持管理を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自然を重視した維持管理 2) 国際的な生物多様性維持のための貢献 3) 教育・研究への貢献 4) 安全性の管理 <p>2. 活動内容 草地 (E, F, I, II) における下草刈り、植栽樹木 (B, D) の間伐、雑木林の維持管理 (C)、全域における外来植物の除去、観察会の実施 (地域連携および講義科目中のフィールド演習を含む)、広場等 (I, II) における施設の点検を行う (表 2)。特に並木や道路近くの木については、倒木落枝等の危険性があるものについて点検・管理を行う。</p> <p>【取り組み (カッコ内は主な実施主体)】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 毎木データベースと倒木リスクモデルを活用した樹木の倒木落枝対策 (施設部、専門委員会) • ヤギを活用した雑草除去実験 (ヤギ部) • 里山ESD行事主催と教育研究調査活動 (YNU里山ESD研究拠点) • キャンパス内の生態系サービスの活用 (地域連携推進機構「エディブルガーデン・エディブルキャンパス」ユニット) • 活動・情報集約、国際発信 (YNUユネスコチェア「生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育」) <p>【計画の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理対象地域の削減または拡大を含む管理計画の見直しは、上記に挙げた主たる担当者の合議を経て決定し、近隣町内会や寄附者に説明 	<p>【モニタリング対象】 植生調査、生物相 (植物、昆虫、哺乳類など)</p> <p>【モニタリング場所】 登録サイト (A2, A3, A4, B3, C, E2, I, II) 及びその他の緑地 (マスタープランA~F等、キャンパス内と隣接地域)</p> <p>【モニタリング手法】 目視調査、毎木調査 (教科)、ブラウnbrランケ植生調査 (専門)、スマホアプリの活用 (自主調査)</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 専門的調査は予算獲得次第随時 • 教科実習を兼ねた調査は教科実施に合わせて実施 • 学生サークル自主調査は随時 <p>【モニタリング実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 業者委託による専門的調査 • 教育活動の一環として学生実習による調査をキャンパス内全域で行う。 • 学生サークル等の自主調査